

## 大和橋

こんにちは。ツッコマー・ゆっきーです。千葉市内にある地図ラー的な萌えポイントを、熱くツッコミを入れながら楽しく解説していくシリーズです。

私はいま、千葉駅から、千葉市が世界に誇る千葉都市モノレールに乗っている（世界最長の懸垂式モノレールとしてギネスにも認定されてるんだゾ）。千葉駅を出るとすぐ、動物公園や千城台に向かう1号線と分かれて栄町駅を過ぎ、葭川上空を進むと眼下には中央公園が見えてくる。この都市型公園を見下ろしながら葭川公園駅を過ぎるとモノレールは大きく左に向きを変え、内陸の方に向かってフワフワと進んでいく。

次の駅は大和橋だ。ここを過ぎるとモノレールは病院坂をグングン上って千葉大学病院の方に…。

というのは千葉都市モノレールが計画段階だった頃の話。実際、モノレールは葭川公園から県庁前に向かって直進してそこで終点になっている。もちろん大和橋という駅はなく（大和橋の近くにできるはずだった駅はおそらく「県庁前」と名付けられただろう）、その上空はポツカリと広い空を拝むことができる。うん、これで良かったのかもしれない。



マスタープラン設定時は、県庁前の先に「1号線延伸・現行検討ルート」というものがあって、この路線が大和橋を通るはずだった。

もしここにモノレールがあったら、次のページの写真のような素敵な夕景は拝めないわけだし、駅ができるということは駅前もできるわけで、そうすると伝統と格式のある大和橋の風情は味わえなかったかもしれない。東京では首都高速が日本橋の空を塞いでしまっていて、今になって道路を地下に移設するような議論もある。大和橋は怪我の功名かもしれないけど、モノレール延伸

計画の頓挫によって、日本橋のような憂き目を見ないで済んでいるのかもしれない。



大和橋は亥鼻山のふもとにあり、太古の時代から都川に架かる橋。千葉市緑区にある源流を出発して最後は千葉港で東京湾に注ぐ都川は、それほど水量があるわけではないので川幅もさほど広くない。そのため大和橋はそれほど長さのある橋ではなく、歴史を抜きにすれば市街地の外れにある小さな橋という扱いだろう。

でも、大和橋は古くは「大橋」と呼ばれていた。交通インフラが整っていなかった時代は地域と地域の行き来や交流が少なかったこともあって、地域の中でいちばん大きな橋はどこも「大橋」と呼ばれていたためだ。

次のページの地図は1126年、千葉開府の年の千葉市の中心部の様子を復元したものだ。千葉市は亥鼻城の城下町であり、千葉神社の門前町でもあり、お城と神社を往来する道路が本町通り（現在の国道126号）。本町通りが都川を渡るときに通るのが大和橋で、この時代から橋は存在していたということだ。

本家の紋

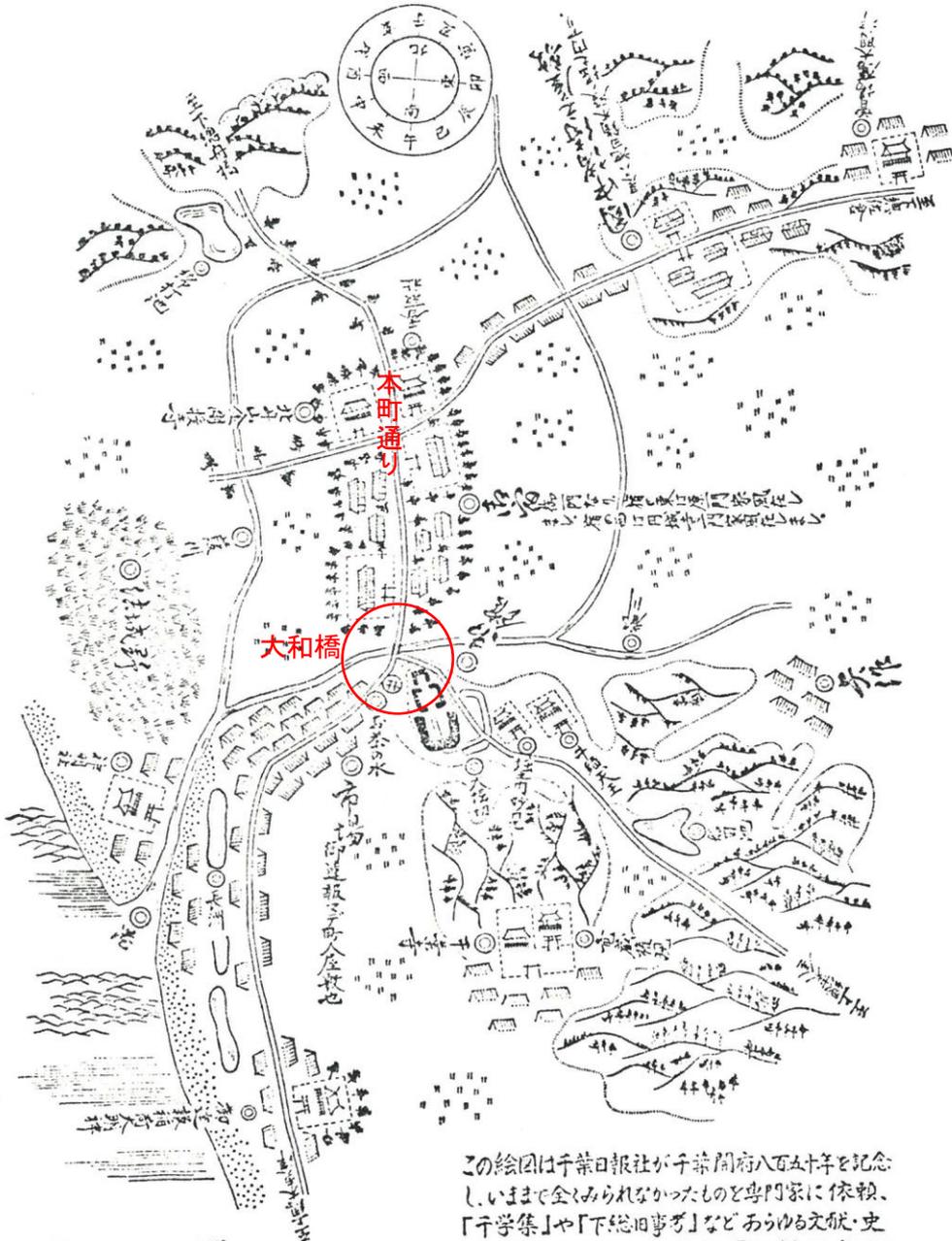


# 下総 亥鼻城下之繪圖



分家の紋

大治元年丙午六月朔。初めて千葉を立つ。凡一萬六千軒也。  
表八千軒裏八千軒也。小路表裏五百八拾余小路  
首馬場大明神より御達報祖の御前まで七里の間 御宿也。  
(『千学集』)



民家… 武家屋敷…  
寺院… 神社…

この絵図は千葉日報社が千葉開府八百五十年を記念し、いまだ全くみられなかったものと専門家に依頼、「千学集」や「下総旧事考」などあらゆる文献・史実にとらわれず、千葉景の監修を得た推定図である。

大和橋は古くから交通の要所として発展していたわけだけど、ここを通る本町通りというのは実は旧東海道でもある。千葉開府のときは、上総の国の国府だった市原と、下総の国の国府だった市川を結ぶルートでもあったことから、大和橋はまさにメインストリートにかかる橋だったわけだ。そのため千葉市で最初に橋灯が設置されたりと優遇もされ、歴史と風格を持つ橋として君臨してきたのだ。

ところでこの付近は市場町という町名になっている。このネーミングは、ここが水運と陸送の交差点だったことを示している。今は目に見えるのは1軒だけになっているが蔵が残されていたり、船着き場らしきものも確認できる。

古い写真がたくさん残されていたり、近くに県庁や裁判所などもあり、千葉市役所も現在の場所に移転する前はこの近くにあったのも、ここが中心地だった所以だ。



大正時代の和橋（目で見える千葉市の100年）

そんなわけで、この私をもってしても大和橋に対してのツッコミどころはそう多くはない。でも1ヶ所だけ、ちょっと不思議な場所がある。それはこの写真。



都川はここから約2キロ上流の立会橋まではしっかりコンクリートの護岸があって河畔もきちり整備されているのに、大和橋の袂にあるこの場所だけは不自然な広場として残されている…。

私はこういう気に障るような場所が大好きなのだ。誰も気にしないけど私は気になる場所。しつこい？めんどくさい？それは私にとっては誉め言葉。気になるものは気になるし、知りたいものは知りたいのだ。悪い？

この謎は、この大正時代の地図がおしえてくれている。



「千葉市概要」より

これを見ると都川は大和橋の手前で蛇行してる！護岸ができる前は川はほぼ自然のまま流れていたんだけど、この蛇行は人工のものだ。都川の隣にはもう1つ流れがあり、これは丹後堰水路と呼ばれていた。江戸時代に農業用水として開削されたもので、この流れが運ぶ土砂が大和橋付近に堆積して、都川の流れを変えていたのだ。

その後、丹後堰用水路は千葉市の都市化とともに役割を終え暗渠化され、都川はこの蛇行部分を直線化して今の状態になったというわけ。流れがあったところには建築物がなかったのと、建てるには狭いため、そのまま中途半端な広場になっているわけだ。これでスッキリ！

ツッコミ担当：田中幸穂  
文章・写真担当：小川順一